



学校だより

No. 7 さいたま市立神田小学校
令和6年 10月31日発行 Tel (853) 4377
URL : <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を
たくましく生きる神田の子
・かしこく・たくましく・あたたかく

教育の力

校長 中村 誠

昭和時代の教育哲学者であられた林竹二（はやしたけじ）先生の言葉に「ヒトの子が人間になるためには教育が必要だ。ヒトの子は教育によって人間になる。ヒトの子には大きな可能性がある。人間は、大人になれば自分で自分を教育できるようになるから、人間だけが自分の生きる道を選択できる存在なのである。」とあります。学生時代に出会った言葉ですが、教育者として20年以上携わってきた今だからこそ、この言葉の重みを感じています。子どもたちにとって、義務教育を受けている期間というのは、ヒトから人間となり、自分自身の人生を切り開くための大事な基礎を学ぶ期間だと言えるからです。

10月17日から2日間、6年生と一緒に修学旅行に行ってきました。戦場ヶ原のハイキングで道行く人に元気に挨拶する姿や、具合の悪い友達に優しく声をかけて協力し合っている姿を見て、6年生の心優しくも頼もしい姿を見ること



日光の山々を眺めながら戦場ヶ原をハイキングしました。



これからの未来に向けて、自然の家
に白樺の苗を植えました。

ができました。

また、10月19日から3日
間で行われた5年生の自然の教

室では、地元館岩地域のマラソン大会に参加しました。自身の記録を少しでも伸ばしていこうと、最後の最後まで走り切るあの真剣な表情を見て、5年生一人一人の力強さを感じました。

そして、10月24日、他校から指導者を迎えて行った1年生の生活科研究授業では、4月の入学式から大きく成長した1年生の姿に心が温くなりました。1年生の子どもたちが、この先教育を受けていくことで、修学旅行や自然の教室で見せた5年生や6年生のようになっていくのだと思うと、教育にはとてつもなく大きい力があることを強く感じざるを得ません。

教育の「育」の字には、「育（はぐく）む」と「育（そだ）てる」の2つの意味が込められています。「育む」とは、親鳥がその羽でひなを覆い包み育てるように、かばい守るという意味が込められており、「育てる」とは、養い成長させることで、親鳥が、我が子が巣立つよう自然に自立できるよう少しずつ手を離すという意味が込められています。何かを「教える」だけでは教育にはならず、時には育み、時には育てることが必要です。

そして、教育は学校教育だけで行われるものではありません。子どもにかかわるすべての大人が、その子の人格を認めつつ、人生の先輩として「教え育み」「教え育てる」ことが重要ではないかと考えています。神田小の全ての子どもたちの可能性を信じ、学校・家庭・地域が一体となって子どもたちへの教育を進められるよう、学校が地域の柱となり取り組んでまいります。今後とも御理解と御協力のほど、お願い申し上げます。